

沖縄の授業のための教材研究

2009/01/16

尾形正宏

以下の文章は、授業をする前にまとめたものです

はじめに

前回は報告したように、社会科で公開授業をすることになりました。研究テーマは「活用力」。時期的にはちょうど5年生「日本の国土」の部分で「気候にあった暮らし」のところ。

そこで、沖縄を取り上げて授業を組むことにしました。

そして、いつものように、まずは教材探しをはじめました。

こんなときは、「まずはネット」です。

「沖縄時事出版」の出版物

ネットの検索で、この会社が引っかかってきました。

沖縄の出版社です。小中学校の副読本のようなものを扱っているようです。さっそく研究の始まりです（私は、なにか少し本格的に調べようと思ったら本やものを集めるくせがあります。熱中すると、お金が...）。

この出版社から購入した本を簡単に紹介します。

理科の副読本 4冊（3年～6年）各500円

いずれも沖縄県理科教育協会編集のカラー版の本です。

沖縄県は日本の他の地域とはちがい、自然環境や気候はたいへん特徴的です。そこで、検定教科書を使っても、あまり対応できないことが往々にしてあるのではないかと想像されます。

これらの副読本がどれくらい使われているのかは分かりませんが、けっこう需要があるような気がします。

これらの本を見てみると、

1年中蝶の成虫が見れる

取り上げられている植物や動



物が検定教科書とはちがう

沖縄の川についてきれいな絵が出ている

など、いろいろと興味深い内容がつまっています。

6年生「沖縄の理科」の項目と見てみると、以下のようになっています。

- 1 いもを植えよう
- 2 生き物とかんきょう
 - 沖縄の森と生き物
 - 沖縄の川と生き物
 - 沖縄の海と生き物
 - 漫湖の湿地帯と生き物
 - 身の回りのかんきょうを調べてみよう
- 3 大地のつくり
 - 地層の観察
 - 学校のまわりを調べてみよう
 - 沖縄県のおもな地層観察地
 - 地層のいろいろ
 - いろいろな時代の地層と化石

今回は、このうち「生き物の1年」と「沖縄の川」を資料として子どもたちに示してあげようと思います。

社会の副読本（5年、6年生）各570円

さて、社会科の副読本も手に入れました。4年生のもあるようでしたが、今回は5,6年生用を購入しました。

これもまた、おもしろかったです。

5年生用には、それこそ「沖縄の農林水産業」のことが出てきます。「工業」の部分では「オリオンビール」を扱っていました。サトウキビや花卉の栽培などについては、検定教科書とあまり変わりませんでした。資料や写真は抱負で、授業づくりのヒントを与えてくれました。

実際の授業では「石垣島の稲づくりの1年」を提示して、沖縄の米づくりの導入にしたいと考えています。さてさてどうなることやら。

6年生用の「歴史と政治」は、何と言っても歴史がおもしろいです。琉球の歴史を知らない人は、こういう本から入るのもいいですね。うまくまとめられています。

授業では「米軍基地問題」を扱うときに参考にするとともに、



環境読本 『消えゆく沖縄の山・川・海』1500円

沖縄県教育文化資料センター・環境・公害教育研究委員会編集の本書は、B5判、128頁の立派な本です。

資料としても読みものとしても豊富なものとなっています。

本書の紹介を出版社のHPから引用します。

本土復帰以後の急激な開発は、山を裸にし、川を海を赤土で汚染し、生態系へ多大な悪影響を及ぼしています。本書は環境問題・自然保護運動の第一線にある執筆者たちが、長年の研究・観察・活動をふまえ沖縄の自然への想い、現状への危機感を語るものである。

これまでに数多く発行されている環境問題に関する資料中心の図書とは違い、高校生やお母さん方を対象とした沖縄の環境問題と環境教育の入門書となっているため、文章も平易なもので、写真やイラスト、執筆者のメッセージがいっぱい詰まっています。

今、沖縄では軍事基地による環境汚染、干潟埋め立て、ジュゴンの生息海域汚染、赤土汚染、汚水問題など、環境問題の課題が山積みになっていることを考えさせられます・・・。

授業を進めるときのバックボーンとして、大切な視点を学ばせてもらいました。



琉球 沖縄 歴史人物伝』1500円

編集は「沖縄歴史教育研究会」所属の新城俊昭（あらしるとしあき）氏。B5判変形で232頁もある本です。これも出版社のHPから引用します。

本書は琉球・沖縄史に関する政治・教育・芸術など幅広い分野から53名（付録の事典などを含めると260名）を取り上げる事で『親子で沖縄人（ウチナーンチュ）の生き方』を共に学ぶことができる『人物伝』です。次代を担う若い世代が読みやすいように平易にまとめてますが、大人でも楽しめるように用語の説明や詳しい資料なども収め、同時に新しい発見や従来的人物伝の誤りも正しました。さらに本文と関連させたコラムを随所に設け、より歴史に興味を持てるよう工夫もあります。



一人4ページで説明されており、とてもスムーズに読むことができました。脚注もしっかり書いてあり、あまり琉球・沖縄の歴史や文化にくわしくなくても読めるように工夫されています。漢字にも読み仮名が多く、時には「ウチナーグチ」のふりがなもあります。ありがたいことです。これと同様な内容の大人向けの本もあるのかも知れませんが、多分、読み切るのは大変だろうなと思います。

琉球文学を網羅する『沖縄の文学』 1500 円

最後に紹介するのは「琉球文学」を体系的にまとめた本です。HP の解説には次のように説明されています。

本書には、琉球方言、歌謡、琉歌の他に、方言説話「白銀堂伝説」、執心鐘入「丘の一本松」などの劇文学（組踊と沖縄芝居）さらに日記 評論、随筆、琉球和文学、琉球漢詩文と全ジャンルを網羅しています。また、数多くのことばに語注を配し、現代語訳や解説を掲載するなど、予備知識がない人でも理解できるよう工夫されていますので、手軽に読み進めることができます。

本書とペアになった 2 枚組 CD（2000 円）も発売されており、実際の唄や音楽、発声や発音などを聞くこともできます。

私は、本も CD も購入したものの、今回はあまり見ることも聞くこともなく過ぎ去りました。

今後、沖縄そのものについて授業するときにはぜひどこかに取り入れたいものだと思っています。



メールのやり取り

沖縄時事出版社さんとは、数回、メールのやり取りをしています。それを紹介します。

12月18日 沖縄時事出版インターネット書籍販売 尾形

石川の尾形です。

昨日、商品が届きました。

やはり本土とは違う教材があり、おもしろいです。

3学期にどんな授業を組もうかと考えています。

ところで、沖縄で使われている教科書というのは、

本土のものと同じなのですか？

特に理科なんかどうなのでしょう？

何かご存じでしたら教えて下さい。

12月19日 沖縄時事出版より返信

さて、おたずねの件ですが、弊社理科担当（小学校）に確認をいたしました。少し長くなりますが、理科担当者のお返事をそのまま載せまして、お返事とさせていただきます。

沖縄県内の小学校では、現在、東京書籍・学校図書・啓林館の三社の教科書が採択されており、（もちろん本土と共通の教科書です）。割合としては、8割が東京書籍、

残り1割ずつを学校図書・啓林館で分け合っています。

もちろん授業は教科書を中心に進めていくのですが、どうしても沖縄の気候の特徴で、時期が合わない場合が出てきたり、観察する動植物などの素材がそぐわない場合が出てきます。そういう現場の声を集約し、「沖縄県理科教育協会」と共に編集した教材が「沖縄の理科3～6年」という事になります。学校現場では、前述したように、教科書と合わない単元が出てきた際には、「資料集 沖縄の理科」を活用して野外観察へ出かけたり、授業で見せたり、または教科書と比較し、本土と沖縄の違いに気づかせたりしている様です。

また、沖縄県内では、前期・後期の2学期制をとっている学校が半数近くあり、教科書と合わない単元がある場合でも、比較的単元入れ替えがやりやすいかと思えます。例えば「3年生の『花と実を調べよう』の単元は教科書では9月の扱いですが、温暖な沖縄では、植物の開花・結実が早く、7月に学習しないと間に合わない」や「4年生の『すずしくなると』の単元は教科書では10月の扱いですが沖縄での10月はまだまだ暑いのですので、11月に取扱う」といった具合です。それに合わせて当社では「沖縄県版理科ノートテスト」も作成し、学校現場へ受け入れて頂いております。

長くなりましたが、先生のご質問へのご回答となりましたでしょうか。

また、何かございましたら、なんなりとご連絡下さい。

沖縄時事出版 編集部 理科担当

こんなにいていないに答えていただきました。やっぱり、単に本屋で買うよりもネットの方が発展性があるなあ。私は最後に次のようなお礼を書きました。

12月19日 尾形 沖縄時事出版社

とても丁寧な返事をありがとうございました。

気候の違う地方の生活の学習をするときに、

もっとも身近なのが学校での授業かも知れないと思います。

そういう意味で、本土との違いがどのように授業に活かせるか年末年始に考えてみます。

また、何かありましたら、お聞きするかも知れません。

今回は、どうもありがとうございました。

お店「沖縄サトウキビ畑」

サトウキビと沖縄の教材用ビデオ映像を探していたところ、「沖縄サトウキビ畑」というお店を楽天で見つけました。さっそくのぞいてみるとDVDがあったので、注文してみました。

DVD 『沖縄の人びとの暮らし』(30分, 2800円)

このビデオは完全な手作りでした。でもちゃんとメニューもあるので使いかって

は良さそうです。ノートパソコンではうまく再生できないこともあるようです。

内容は以下の通り。授業で取り上げたいことはすべて網羅されています。一つ一つのお話も数分間ですから、授業で取り上げることもできます。授業に合わせた内容ですので子ども達にも分かり易いと思います。

- ・ 沖縄の位置
- ・ 昔の沖縄と首里城
- ・ 沖縄の自然と気候
- ・ 珍しい動物
- ・ 台風
- ・ 家の造り
- ・ 沖縄の地形と水、そして断水
- ・ 墓地の島、沖縄
- ・ 沖縄県の農業
- ・ 観光客が多い沖縄
- ・ 平和学習の沖縄
- ・ 沖縄の祭り
- ・ 沖縄のガラス工芸
- ・ 沖縄の料理



副産物 (新聞記事) とメールのやり取り

先方さんは「このような DVD を注文するのは学校の教師に違いない」と鋭く考えられたよう(ま, 経験上当たり前だが...) で, ビデオといっしょに4枚の「新聞記事」が同封されていました。『琉球新報』『沖縄タイムズ』の記事です。

内容とその日付を見てください。

陽気誘われ「春」の合唱 (イワサキクサゼヨ鳴く, 1月16日)

北風ピューッ ブルブル 那覇で17.5度 (11月26日)

一足お先 春告げる桜 (八重岳, 1月15日)

石垣島で田植え始まる (1月10日)

もう, これらのおまけの新聞記事を見たときには小躍りして喜びました。

どれも沖縄の気候をしめすのにおもしろい教材になります。「春」がはやいという記事が多い中で「17.5度で北風ブルブル」には思わず笑ってしまいました。まさに, 所ちがえば...ですね。

そこでお礼のメールを出しました。

12月18日 尾形 りゅうか商事 (沖縄サトウキビ畑)さんの会社)

りゅうか商事 御中

石川の尾形です。

昨日, 商品が届きました。

同封されていた新聞記事にはびっくり。

これは授業に使えます。

子どもたちは自分たち(いちおうすでに今年も雪はふっています)の地方との違いにびっくりするはずです。

また、楽しい話題があったら教えて下さい。

ありがとうございました。

12月19日 りゅうか商事 尾形

こんばんわ。

ご丁寧にメールいただき有難うございます。

新聞の切りぬきは、数年間、暖かい地方の暮らしの単元で、子供達の授業で役立ちそうだなーと言うのを切りぬいて、コピーしサトウキビやビデオをご注文頂いた先生に、無料で入れさせていただいております。

今後も続けて行きたいと思います。

沖縄は、今日も暖かいと言うよりは、暑くて季節感がありません。

先週なんかは、タンクトップ姿の若い女性も見かけましたよ。

年末なのでもう少し寒くなってもらわないと、感じが出ません。

弊社HP、サトウキビの商品の下によくある質問にあります。

「沖縄の桜は南下する。」はおもしろいとおもますけど、いかがでしょうか？

今後とも宜しく願いいたします。

ビデオを注文するときに「来年になったらサトウキビも注文しますので、そのときにはよろしく願います」と書き添えておきました。

サトウキビ 1本 2m 1200円 (送料が 1400円)

さて、そのサトウキビ。以前、なぜか珠洲市にも無料で送られてきたことがありました。子どもたちに分けてくださいとのことで、そのとき一度だけかじたことがあります。あんときは、授業と言うよりも、ただ配ってかじってみただけですが...

今回の授業ではかじる用のサトウキビも注文しますが、写真にあるように「そのままサトウキビ」を手に入れようと思います。サトウキビは台風に倒されてもまた起き上がる力強さがあります。そのあたりのことを本物を持ち込むことで子どもたちに感じてもらえればよいなと思っています。

HPの説明を引用します。

授業でサトウキビを出来るだけ自然に近い状態でお届け致します。葉もついてますよ。



節の数や、節の間隔を実際に数えたり、計ったりする教材として最適です。

到着後 1 週間以内でしたら皮をむいて食用としても十分使用できます。

説明書をお付けしています。

1 本 2 メートル

楽しみだなあ、本物を見るのは。

ただし、生ものなので、授業ぎりぎりに注文する必要があります。来週中には届くと思いますので、どこに隠そうかと考えています。りゅうか商事さんは、「観光パンフレットもつけてあげる」と言ってくれています。これもまた楽しみです。

統計書

日本国勢図会 (第 66 版)』(2700 円)

日本の最新の統計データをもとに日本の社会の現状について概観できる統計資料集です。以前 2000 年版を手に入れていたのですが、ずいぶん古くなっていたので、今回新しい版を購入しました。

しかし、「沖縄」と「全国平均」、「沖縄」と「石川」を比べるときなど、具体的にグラフにしようと思うと本書のデータでは不十分です。



データで見る県勢 (第 18 版)』(2700 円)

そこで、次に本書の登場です。「日本国勢図会地域統計版」と書かれています。

これは県別にいろんなデータだけが載っており、データの検索にはとても便利です。ただし、グラフ化するときには数値をパソコンに入力しなければなりません。でも、全国を比較するわけではないので、よしとしておきます。実は本書と同じ内容の CD-ROM も出ていますが、昨年のものでしかありません。手に入れるかどうか迷っています。

インターネット

こういうときに強い味方はネットの世界です。ネット上にはあらゆる統計情報が準備されていますし、その気になれば経年変化もみることができます。私もネット上で色々を探しましたが、時間の割には自分の思っているようなデータが見つかりません。あまりにも膨大すぎて時間だけが過ぎていくのです。

それでもネットの利用価値はあります。なんせ「ただ」で貴重な情報が手にはいるのですからね。また気象データ(気象庁)のようなものなら、ときどき利用しているので簡単に見つけ出してグラフ化することができました(別レポで紹介しません)。